

宇宙のまちづくりと地方創生

2016年度～2018年度 地方創生推進事業により「宇宙のまちづくり推進事業」（多目的航空公園の機能拡充、宇宙をキーとした観光開発、テレワークによる移住定住の取組み）を実施

2018・4 地方創生拠点整備交付金により宇宙交流センターSORA増築、展示コーナー充実など

2018年度 クラウドファンด์型ふるさと納税によりインターステラテクノロジズを支援、寄付額4,211万円
2019年度も募集中

2017 日本政策投資銀行北海道支店と北海道経済連合会は、大樹町にロケット打上げ射場が整備されると観光客や出張者、雇用や消費が拡大、**年267億円**の経済効果があると発表

2019・4 地域情報通信基盤整備推進事業（H29年度補正予算）により全町に超高速ブロードバンド基盤を整備、多目的航空公園、インターステラテクノロジズ実験場も超高速ブロードバンドサービスを開始



宇宙交流センターSORA

さまざまな航空宇宙関連実験場及び 観光と教育の拠点として



モデルロケットの製作と打上げ

宇宙のまち“大樹町”のこれから

- 第一段階は、現況施設の拡張を基本とし、L1射場(パイロット射場)の整備
軌道投入ロケット打上げ、エンジン燃焼試験場として活用
- 第二段階は、将来の本格需要に対応するため高規格のL2射場(ハイスペック射場)の整備
将来性、拡張性のある射場とし、複数種のロケット打上げが可能な射場を目指す。
- 3,000m級滑走路を整備することにより、有人サブオービタル宇宙輸送に対応
サブオービタル宇宙旅行、2地点移動、ロケット空中発射など多様な用途に使用、
垂直・水平離着陸などあらゆる形態のサブオービタル機の開発、運用に対応

(仮称)「北海道航空宇宙企画株式会社」設立準備会

2019.1.25設置

※とかち航空宇宙産業基地誘致期成会会長・副会長
で構成

準備会会長 大樹町長

〃 副会長 帯広市長、陸別町長、帯広商工会議
所会頭、帯広信用金庫会長、十勝毎日新聞社会長



北海道航空宇宙企画株式会社設立予定 2019. 5



有人サブオービタル機イメージ

ここから宇宙へ

大樹

～未来の日本の子供たちのために～